

新島 襄の言葉

本井 康博（同志社社史資料室）

「深山大沢生龍蛇」

「深山大沢、龍蛇を生ず」。中国古典『春秋左氏伝』の「襄公二十一年」の一節、「深山大沢、実生龍蛇」に基づく。新島晩年の愛唱句（『新島襄全集』Ⅳ、二三五頁）。「龍蛇」とは大人物を指す。

新島が認めた募金趣意書には、計画中の大学を「深山大沢」にし、「器量ノ太トキ、志操ノ高キ、目的ノ大ナル人物ヲ養成」したい、とある（同前Ⅰ、一四八頁）。この「人物」が、十カ月後の遺言中の「個儼不羈なる書生」である。

かつて同志社在学中はその典型であった徳富蘇峰に対して新島は、「同志社ハ是非深山大沢ニなし度候」と心中の想いを打ち明ける（同前Ⅳ、一六五頁）。

新島は学生を型に嵌めるのを嫌った。規則はできるだけ「法三章」ですませ、「小魚」も「大魚」も自在に泳げる「深山大沢」を理想とした（同前Ⅳ、三〇四頁、三〇六頁）。

彼は五年生の古賀鶴次郎にも、「深山大沢」から「将来龍蛇となり芙蓉峰之上迄も達せん事を期し賜へ」と富士山と龍のイラスト入りで激励する（同前Ⅳ、二三三頁）。

（写真は新島遺品庫資料「下四二二番」）

深山大沢生龍蛇